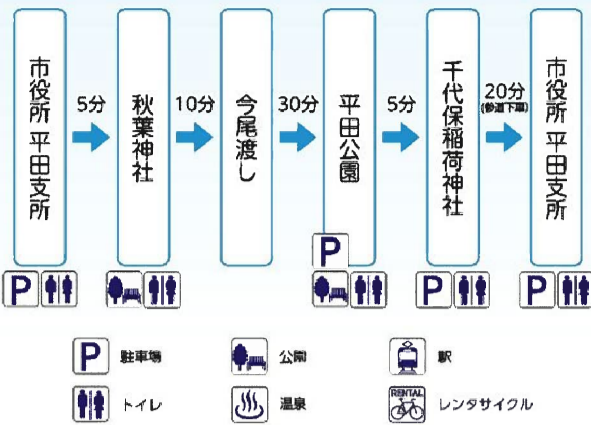


平田西部 おちよぼさん西コース

今尾城下から千代保稲荷神社まで、町並みを感じながらを巡る、平坦で走りやすいコース

8.0km 70分



輪中堤

周辺の河川が出水したときに、水の浸入を防ぐため、村を囲んだ堤です。水害から命と財産を守る防災堤の役割を果たしてきました。水との闘いの歴史を伝えるとともに、その役目は今も続いています。



大樽川の桜並木

大樽川の堤防に2種類約1,000本の桜があります。2017年には、宝暦治水工事を行った薩摩義士の功績を称え、工事の総奉行であった平田靱負翁の名に親しみを持っていただくとう「平田靱負桜」左岸堤防約8kmを「平田靱負ロード」と命名しています。



早川邸

明治24年(1891年)、濃尾大震災で母屋が大きな被害を受けたため、当時の当主早川周造(後に真族院議員)が、地震や水害を考慮した團期的工法により明治27年(1894年)に建築しました。数奇屋造りの和風建築で、設計は、武者小路千家第8代一指齋が受け持ちました。



今尾城跡

今尾城は、今からおよそ500年以上前、室町時代の文明年間(1469~1487年)に築かれたと伝えられています。その後、江戸時代になって尾張藩附家老竹腰氏が城主になりました。天守閣はなく、御城屋敷、書院屋敷、役屋敷という3つの屋敷がありました。現在は、海津市立今尾小学校の敷地となり、石碑が建っています。又、城門の1つを西願寺で見ることができます。



西願寺山門

江戸時代に築造された木造の城門で、明治初期に今尾城の敷地・建物などが競売に出された時、移築されて西願寺の山門となりました。当時の今尾城を偲ぶことのできる唯一の遺構です。



常栄寺

今尾城主竹腰氏ゆかりの寺院であるとともに、薩摩義士の墓所のひとつとして有名です。



今尾渡し

揖斐川の左岸船渡と右岸大巻の間に設けられた道標です。陸上交通の発達していなかった時代、河川は重要な交通路であり、今尾渡し道標は、渡船場の道しるべとしての役割を担っていました。



今尾左義長(秋葉神社)

2月第2日曜、秋葉神社の境内で行われる正月行事の一つで「どんと焼き」とも呼ばれています。若者が周囲約7m、重さ約2tの竹神輿を担いで境内につりこみ、火を放ちます。燃えさかる竹神輿の周りを若者が駆け回り「火を崇め、火伏を祈願する」神事は、岐阜県の重要無形民俗文化財に指定されています。



千代保稲荷神社

「おちよぼさん」の愛称で親しまれています。今から約500年前の室町時代、森八海が須弥の里を開き、義家公から授けられた源氏の霊璽や宝剣等を祀ったのが始まりとされています。商売繁盛や家内安全の神様として知られており、年間約200万人の参拝者が訪れます。



平田西部 おちよぼさん西コース

- 1 2 拡大図
- 注意箇所
- トイレ
- 駐車場
- 交番
- コンビニ
- 学校
- 温泉・入浴施設
- SHOP
- 自転車店

